

## 日本科学哲学会 若手研究助成一覧

### 2019 年

横路佳幸「人の質料形相論的な構成主義の可能性」

高取正大「分析形而上学と経験科学の連続主義に対する批判的検討」

### 2018 年

清水右郷「科学的推論の倫理学の試み」

会場健大「効果量 (effect size) 概念の哲学的意味に関する研究」

### 2017 年

木下頌子「種名の指示の理論に基づく形而上学的方法論の評価—芸術作品の存在論を手がかりに—」

野村尚新「部分構造論理に基づく動的認識論理の構築」

鴻浩介「人工物としての行為—新しい実践的知識論」

### 2016 年

大西琢朗氏「構造化された帰結関係——非古典論理に対する推論主義的・証明論的意味論の基盤構築」

蝶名林亮氏「道徳的個別主義と道徳的説明についての研究」

### 2015 年

岩月拓氏「研究法に焦点を当てた科学の変化 (scientific change) の研究」

小倉翔氏「アプリアリな正当化と推論」

### 2014 年

源河亨「価値知覚と知覚学習」

佐金武「時間旅行の (不) 可能性について：現在主義の観点から」

高橋優太「ゲンツェンの無矛盾性証明への直観主義からの影響およびその哲学的意味」

### 2013 年

島村修平「推論主義に対する哲学的検討とそれをういた内容外在主義と自己知の両立問題解消の試み」

田中泉吏「断続平衡説の再検討」

### 2012 年

上田知夫「信念報告の意味理解：信念述語の副詞説を用いた説明」

薄井尚樹「「生得的な心」の可能性」

### 2011 年

金子祐介「認識論の形式化—カルナップの Aufbau を中心に」

谷川卓「形而上学の原理の認識論的正当化に関する研究——ラムジー的謙遜性をめぐる議論を題材として」

宮原克典「「身体化された心」に相応しい志向性観の探究」

## 2010年

小草泰 「視覚経験の透明性と色の形而上学についての研究」

笠木雅史 「「認知的地位」概念とその文脈依存性の解明—新たな文脈主義の構築に向けて—」

村井忠康 「知覚と概念——描写モデルに基づく概念説の探究——」

## 2009年

入江俊夫 「数学における問題と解決との関係と証明概念～『論理哲学論考』から『数学の基礎』に至るウィトゲンシュタインの数学の哲学の展開の意味～」

四津雅英 「発語内行為について——〈表向き態度〉と〈社会的位置づけ〉の概念に基づく分析——」

山田圭一 「帰属者の文脈主義モデルを用いた認識的規範の多元性の解明—正当化の内在主義と外在主義の調停を目指して—」

## 2008年

小山虎 「様相実在論に対するメタ存在論研究に基づく反論とその射程」

櫻木新 「記憶と正当化」

吉満昭宏 「関連論理の自然な意味論」

## 2007年

荒磯敏文 「量化表現を用いた指示という概念を言語哲学の研究対象とするための理論的研究」

金田明子 「真理概念とその病理性的研究 —意味論的アプローチと文脈鋭敏性アプローチの比較を通して」

森元良太 「進化論における確率概念の哲学的基礎付け」